

道を究める

会期 ▶ 2011年7月21日(木)～24日(日)

会場 ▶ 大阪国際会議場(グランキューブ大阪)、リーガロイヤルホテル大阪

会長 ▶ 南都 伸介(大阪大学大学院 医学系研究科 先進心血管治療学 教授)

第20回

日本心血管インターベンション治療学会が、7月21日(木)～24日(日)に大阪国際会議場(グランキューブ大阪)、リーガロイヤルホテル大阪にて開催されます。

当院からは、野口 幸 臨床工学科 技士長が学術発表をいたしますのでご紹介します。

— 抄 録 —

LAD distal の CTO に Cypher stent を留置し 8 ヶ月後 IVUS で stent fracture を認めた 1 例

医療法人 康仁会 西の京病院 臨床工学科¹⁾ 循環器内科²⁾

野口 幸¹⁾ 麻野秀人¹⁾ 上西大輔¹⁾ 奥村啓之²⁾ 福井寛人²⁾ 中井章至²⁾

齊藤精久²⁾ 高比康臣²⁾

【症例】60 歳代男性。主訴は胸痛。

【現病歴】2009 年 5 月頃より労作時に胸痛出現し、当院外来を受診した。来院時の ECG で V4-V6 に ST の低下、2.3.aVF に陰性 T 波、心エコーで壁運動の低下を認め CAG を行った。造影所見は seg13 99% delay、seg7 90-99%、seg8 は CTO で Ad Hoc にて seg13 に PCI を施行した。翌 6 月に seg7 に対して PCI を行い、7 月に seg8 の CTO に対して PCI を行った。wire は wizard 1 で病変部を通過した。IVUS で CTO distal は血管径 2.0mm と shrinkage し Cypher stent 2.5mm×23mm、2.5mm×18mm を overlap させ留置した。4 ヶ月後の follow CAG では ISR は認めなかったが、2010 年 5 月頃より再度、労作時の胸痛出現し CAG で seg8 に留置した Cypher stent の ISR を認めた。病変部は IVUS で fibrous plaque と明らかな stent fracture を 2 ヶ所認め、PROMUS 3.0/15mm を留置し IVUS にて良好な拡張および stent fracture を cover したことを確認し終了とした。

【結語】今回の症例は血管が shrinkage していることからステント留置は 2.5mm のサイズのステント選択せざる得なかった。本症例のように CTO による distal lesion が shrinkage している症例では 1st stage はステント留置を行わず POBA のみで終了とし、2nd stage でステント留置する段階的治療を行えばステント径も初回より size up でき ISR および stent fracture を回避できていた可能性がある症例であった。